

『アロマセラピー学雑誌』投稿の手引き

1. 投稿の準備

必ず投稿規程および本投稿の手引きの内容を確認のうえ、執筆する。

2. 原稿の書き方

- (a) A4判白色無地の用紙を縦長に用い、片面の右側に十分なマージン（左側には2.5 cm程度）を取って記入する。12ポイントの文字を使い、1行40字、1ページ21行（1ページ840字）で、左余白に行数、右下余白に頁数を記載し、横書きに印字する。
- (b) 原稿は次の順で、ページを改めて作成する。表紙、英文要旨、和文要旨、本文。
- (c) 句読点、カッコ、ハイフンなどは全角1字分を用い、数字および英字は半角文字とする。数字と単位の間は半角空けとする。
- (d) 節の初めは1字分空ける。

3. 用語

- (a) 用語は常用漢字、現代かなづかいとし、専門用語は文部省学術用語、JIS用語に、医学用語は日本医学会編「医学用語辞典」に、酵素名はInternational Union of Biochemistry and Molecular Biology (IUBMB)に、化合物名はInternational Union of Pure Applied Chemistry (IUPAC)に原則として従う。
- (b) 薬品名は一般名とし、商品名を記載する際には一般名の後にカッコを付けて記載する。
- (c) 酵素名、化合物名、薬品名を略記号や番号で表す場合は、本文の最初に出てくる箇所で、正式名の後にカッコを付けて略記号または番号を記載する。
- (d) 単位は、原則として国際単位系(SI)を用いる。
- (e) 有意確率を表す「 p 」値はイタリック体で表記する。
- (f) 外国の人名、会社名などは外国つづりで記載することを原則とする。一般に日本語として通用しているものはカタカナで表記する。
- (g) 精油の製造者や実験の機材などの会社名は、「株式会社」などの正式名称を用いる。
- (h) アロマセラピーに関する用語は、アロマセラピー検定公式テキスト1級・2級(公益社団法人

日本アロマ環境協会, 2019)に準じる。また、アロマセラピーではなく、アロマセラピーと記載する。

- (i) 植物の学名はイタリック体で表記する。
- (j) マッサージは、トリートメント、または施術という用語に置き換える。ただし、該当する国家資格免許を有した者が行うマッサージのことを指すのであればマッサージという用語を使用してもよい。

4. 図、表、写真

- (a) 図、表は1枚ごとにA4判白色の用紙を用いて記載し、合計10枚以内にまとめるようにする。用紙の下右隅に著者名を記入する。
- (b) 写真はA4判白色の用紙に貼り付けて2部提出する。用紙の下右隅に著者名を記入する。
- (c) 図、表、写真の挿入箇所を本文右側余白に指定する。
- (d) 図、表、写真の題名・説明文は和文または英文(和訳を添付)とする。
- (e) 図、写真の番号・題名・説明文はそれぞれの図、写真に記載するとともに、すべての図、写真の題名、説明文をFigure or Photo caption(s)として別紙にまとめて記載する。
- (f) 表は英文の場合はTable 1…、和文の場合は表1…のように記載する。本文中で表を引用する場合も、それぞれの表記に従ってTable 1, 表1のように記載する。
- (g) 図は英文の場合はFig. 1…、和文の場合は図1…のように記載する。本文中で図を引用する場合も、それぞれの表記に従ってFig. 1, 図1のように記載する。
- (h) 写真は英文の場合はPhoto. 1…、和文の場合は写真1…のように記載する。本文中で写真を引用する場合も、それぞれの表記に従ってPhoto. 1, 写真1のように記載する。

5. 表紙

次の事項を必ず記入する。

(a) 論文の種別

原著論文、総説、研究ノート、施術報告、事例報告

(b) 論文題名

論文内容を明確に表現し、なおかつ長すぎず簡潔な題名とする。

大題名がある場合には題名に文献番号を付け、引用文献・注欄に記載する。

(c) 著者名

著者連名の場合は、通信連絡に当たる著者名の右肩に*印を付ける。

(d) 研究の行われた機関の公式名

異なる研究機関に属する著者がいるときは、所属先別に番号を付け、所属機関名を記載する。通信連絡に当たる著者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレスを記載する。

(e) 図表、写真の枚数

挿入する図、表、写真がある場合はそれぞれの枚数を記載する。

6. 英文要旨

英文要旨は、その論文において著者が強調したい要点を含め、目的、方法、結果(重要な数値を入れる)を要約する。

(a) 要旨は次の順序で2段送り(ダブルスペース)に印字する。

- 1) 論文題名
- 2) 著者名
- 3) 研究の行われた研究機関名(公式英名)
- 4) 要旨本文
- 5) 大題名を特に必要とする場合はその題名
- 6) キーワード(3~5個)

(b) 要旨本文の長さは、原著論文、総説は600 words以内、研究ノート、施術報告、事例報告は100~200 words程度とする。

7. 和文要旨

和文要旨は、その論文の主旨が把握できるように、目的、方法、結果を要約し記述する。

- (a) 要旨の長さは、500字以内とする。
- (b) キーワード(3~5個)を付ける。

8. 本文

本文の項目は、投稿規程3-1.原著論文、3-2.総説、3-3.研究ノート、3-4.施術報告、3-5.事例報告に準ずる。

- (a) 大見出しは、1. 緒言、2. 実験、…のようにセンタリングし、中見出しは、2.1、2.2、…、のようにし、小見出しは、2.1.1、2.1.2、のよ

うにして左から1字空けて記載する。なお、小見出し以下の区分は(1)、(2)…を用いる。

[例]

2. 研究方法(センタリング)

- 2.1 被験者(左から1字空け)
- 2.2 測定条件(左から1字空け)
 - 2.2.1 アロマセラピー(左から1字空け)
 - (1) 試料
 - (2) 試料の呈示
 - 2.2.2 脳波の測定(左から1字空け)
 - 2.2.3 脳波の分析(左から1字空け)
 - 2.2.4 質問調査表(左から1字空け)

9. 引用文献・注

- (a) 引用文献および本文中の注記は該当する箇所の右肩に¹⁾または^{2),3)}または^{4)~6)}のように通し番号を付け、本文の最後にまとめて引用順に記載する。
- (b) 同じ著者、同じ雑誌や同じ単行本などの巻・年・ページが異なる文献を引用する場合でもibid., idem., 「本誌」などの用語は用いない。
- (c) 著者名は、漢字の場合は姓名を、欧文の場合は姓の次に名の頭文字を記す。複数の場合はすべての著者名を記入する。ただし、著者数が5名以上の場合には、筆頭から4名までを列記し、それ以後は「、他」、「、et al」とする。
- (d) 文献名の略し方は、Chemical Abstracts、化学便覧などの略し方に準じる。
- (e) 和文誌は当該誌で指定する略記法に従うものとし、特に指定のない場合は略記せずに正式名で記載する。
- (f) 雑誌の場合、誌名はイタリック体、巻数はゴシック体とし、年号には()を付ける。
- (g) 単行本の場合、書名には“ ”を付ける。
- (h) 著者自身の未印刷(投稿済み)の研究は好ましくないが、引用する場合は、「投稿中」と記し、著者名、投稿論文誌名を付記する。
- (i) 電子ジャーナルの場合、著者名：論文題名、雑誌名、巻(号)、頁、発行年(西暦)、アクセス年月日、URLのように記載する。
- (j) Webページの引用は、電子媒体からの削除やURLの変更により参照できなくなる可能性があるため、可能な限り避けること。Webページに代わる刊行物が存在せず、やむなく引用する場合は以下のように記載すること。発行機関名または著者名、年号、資料題名、

アップデート日, <URL>, アクセス日の順に記す。ただし, この中で不明な箇所は省略することができる。

(2000年6月27日 作成)
(2022年7月14日 最終改定)

[例]

引用文献

- 1) William S. C., Joseph C. S.: Uniformity of olfactory loss in aging, *Ann. NY Acad. Sci.*, **561**, 29–38 (1989).
- 2) 野田信三, 大徳絵里, 岡崎 渉: Rose Waterの微生物生育阻害について, *アロマセラピー学雑誌*, **4**, 26–29 (2004).
- 3) Sawamura M. (Ed.): “Citrus Essential Oils. Flavor and Fragrance”, pp. 5–7, John Wiley & Sons, New Jersey (2010).
- 4) 鳥居鎮夫: “香りの謎”, pp. 35–39, フレグランスジャーナル社, 東京 (1994).
- 5) 公益社団法人日本アロマ環境協会 (2014), アロマ研究室, 2014年9月10日, <<http://www.aromakankyo.or.jp/basics/literature/>>, 2014年12月10日アクセス